

話せない人と話す魔法の道具づくり 子どもたちの自由な発想力に驚き

● 一般社団法人 東京都言語聴覚士会

言語聴覚の日委員会 委員長 小林 祐貴

言語聴覚の日には少し早い日程でしたが、8月4日に小学生を対象に「夏休み自由研究ワークショップ 話せないってなんだろう?～話せない人と話す魔法の道具をつくろう～」と題して、イベントを開催しました。

当日は、児童19名(小1～中2)、保護者14名、当事者3名、当事者支援者9名、記者3名、スタッフ19名、飛び込み見学2組(児童2名、保護者2名)と総勢71名、猛暑にも関わらず多くの方にご参加いただき、盛会となりました。

内容は、①イベントの目的、言語聴覚士の説明②筋萎縮性側索硬化症(ALS)の説明③当事者の方ご紹介④(一社)日本ALS協会嶋守会長よりご挨拶(コミュニケーション手段のデモンストレーション)⑤透明文字盤の説明・作成(当事者の方への質問を考え、それに合わせたオリジナル文字

盤の作成)⑥自身が作成した文字盤を使って当事者の方とコミュニケーション⑦ハイテクエイドの体験、当事者によるデモンストレーション⑧まとめのプログラムシートの作成などを行いました。

児童を対象としたイベントの企画・運営は初めての試みで、不安もありながらの開催でしたが、児童の順応力の高さや、発想の自由さに感心させられました。また、当事者のお三方からも「とても楽しかった」「良い企画だ」とのお言葉をいただきました。今後も、若年層への啓発活動を継続していきたいと思います。



自分たちで作った透明文字盤で当事者とコミュニケーションを取る子どもたち



保護者アンケート結果 (抜粋)

- ALSの疾患を持つ方、STさんを初めて目の当たりにし、コミュニケーションを取る様子やSTさんの仕事を間近でみる事ができて貴重な体験だったと思います。
- 子供は興味を持ち楽しんで参加していた。会話以外のコミュニケーションの工夫を学んでくれたと思います。
- 家では家族に報告し今日のことと障害を持ちながら生きる人達の事を話し合いたいと思います。
- STは障害を持ちながら生きている人をどう理解するか、どこまで理解するか、どう伝えるかに日々向き合っている人たちだと強く感じました。プロの仕事ぶりを見せてもらった気がします。本日はありがとうございました。



児童感想 (聞き取り)

- ありがとうの一言も簡単に言えないのがとても虚しく悲しく感じた、とてもつらいだろうな…。
- 僕になにか出来ることはないかな。ALSの治療法が早く見つけれられる世の中になってほしい。